OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	円珠庵の藏書について
Author(s)	八木, 毅
Citation	語文. 1951, 3, p. 37-44
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/68382
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

円珠庵の藏書について

八木毅

円珠庵蔵書は五十九部、（百十三冊・二巻・三輯）伝来されてをり、その類別は契沖の自筆稿本、自筆写本、契沖以外の人の書写本およびそれらの校定・書入本など種々である。

それらは大正末年、散佚を防ぎ、保存の万全を期する為に餌差町の円珠庵から大阪府立中之島図書館に寄托され、戦争中は泉州犬鳴山の某寺に疎開されたが、（その間に円珠庵は罹災全焼）現在また中之島図書館五階貴重書庫に極めて鄭重かつ満足すべき状態で保存されてゐる。

私はいま、契沖全集の解題となるべく重複しないやう注意しつゝ円珠庵蔵書の簡単なる解説を試みたいと思ふ。その順序及び書名は図書館に於ける目録に従つてゆくつもりであるが、左に挙げる十部は名を誌すにとゞめておく。

1 般若魚尽蔵陁羅尼品——外二種——
2 守護経・不空羂索経
3 仏祖統紀——外五種——
4 日本国現報善悪霊異記上（内容は題簽の如くならず）
5 涅槃経
6 又舞悦者名曰
7 涅槃経序品目
8 大般涅盤経会疏解　巻第廿六
9 大般涅盤経梵行品之二
10 七支念誦随行法
11 色葉和難集（如水書写本）

三冊十巻。縦廿七・三糎、横十糎、表紙藍紙。上冊（一・二・三）百二枚墨付百一枚、中冊（四・五・六）百十八枚墨付百十五枚、下冊（七・八・九・十）百卅四枚墨付百卅二枚。題簽に「色葉和難集一、二、三」の如くあり。奥書及び書写せる者の名なし。和歌難語の解釈。

12 詞林采葉抄（契沖手沢本）

三冊、十巻。縦廿七・二糎横九・五糎。上冊（巻一から巻四）、中冊（巻五から巻七）、下冊（巻八から巻十）。題簽なく表紙左上に「詞林采葉抄」とあり、巻十の奥に

東本願寺所献也
右此十巻復三帖詞林采葉抄者本是東本願寺被贈水戸源之品卿（貞通）之本也源君因命万葉代匠記。為検閲転賜而已

元祿二年初春　　密乗遺資契沖（「圓珠庵印」と丸墨印あり）

13 和字正濫要略（契沖自筆稿本）

一冊。縦廿四・三糎、横十七・七糎。百十二枚、一紙両面、各面九行、胡蝶本冊子、題簽に「和字正濫要略」とあり。奥に

元祿十一戊寅五月初八日　　契沖

とあり。

14 禁秘御抄――外三種――（契沖自筆写本）

一冊。縦廿四糎、横十六・八糎、半紙判、五枚、とも表紙の仮綴。表紙に「禁祕御抄　九条殿遺誡　祭弘法大師文　釈書玄賓伝」と並べ、右下に「契沖」の署名あり。奥に

拾芥抄下本

小野宮右府説

一念誦　二不謗三宝　三食

人保此三事永可終天年云々

15 和歌三式（契沖自筆写本）

一冊。縦廿三糎、横十六・六糎、半紙判。卅枚墨付廿五枚。題簽に「倭謌三式（濱成喜撰孫姫三）」とあり、本文に青・朱にて書入あり。（十一ウ）に

上東種々物也実名随掇得分半如件但其残餘可尋頃従武州得一書其名謂神世（代）古語見此式（或）聞考粗相似不替処相用注異説左右載彼本泄此式二十六種則書写紙奥次第雖為混雑指非遺恨故不改之頗夫婦夢霜右三種者勿彼本在此式委遂校合編錯乱尤為欣然者也

和歌作式（喜撰）の後（十二ウ）に

三式聞名久矣始吾恨不得之既得之亦恨有脱誤掩卷太息然不堪好古之懐秋雨之餘謄写彼本以期它日会衆本為完本云

元祿十年八月十七日書写畢見林本孫姫浜成喜撰故奥各此今以此式置第二孫姫為第三矣

秀明（「松下見林」ノ角朱印）

奥書（廿五ウ）あり、次の如し、

右自奥義抄至袖中抄所引之三式中歌等任見及書加之其間文字有誤脱後人得善本正之且有遺漏者書添耳

元祿十年九月廿四日　愈詠教沙門契沖

孫姫雖喜撰長歌式因茲居第三矣

16 新勅撰集評註（契沖自筆稿本）

二冊。縦廿三・三糎、横十六・八糎、半紙判。乾四十七枚、坤六十九枚。表紙は樺色、藍紙の題簽あり。奥書に

此集第二十下巻の終に載られたまへる事一部の鎮護にもや当られけんとそおほえ侍る

元祿十二年五月廿六日草之竟　　摂之江南沙門契沖

17 厚顔抄（後人校合・書入本）

三冊。縦廿七・二糎、横十九・六糎、美濃判。各冊題簽あり。上五十四枚、裏表紙内側に

享保八癸卯五月十一日於小橋校合畢墨付五十四葉

とあり、最初四枚に序、本文「日本紀和歌畧註上凡長短一百二十七首」を収め、中四十一枚「日本紀和歌畧註下」允恭天皇七首以下を収め、下三十七枚「古事記和歌畧註凡百七首」を収む。その奥に次の如くあり、

以上墨付卅十丁

（朱）宝永二年十月十八日比校畢

享保八癸卯五月上旬重而校合了

18嶋の宮（伝契沖自筆本）

一冊。縦廿・七糎、横十七・八糎。表紙薄青縞模様、裏打本。題簽に「嶋の宮勾の池の放鳥人めに恋て池にかつかす　契沖自筆」とある。表紙裏に次の如くあり、

二十三枚　明治第七　十月　契沖師　自筆　六十四首　加納川

契実修覆　廿六丁章　九十十一十二紛失

題簽を付したるは筆蹟から右の契実であると思はれる。本書は万葉集の巻二・四・五・六・七・十三・十四の作品六十四首（内長歌五）に対する選釈であり、代初と内容略　同じ。

19百人一首改観抄（契沖自筆稿本）

三冊。縦廿七・二糎、横廿・二糎の美濃判。題簽に「百人一首改観抄上」の如くあり。上・中各卅六枚、下卅二枚各面十二行。各巻初に「円珠之印」の角印を墨で、各巻末に「円珠艸堂」の丸印を墨で捺す。表紙は樺色。本文に朱または墨にて書入を多くす。下巻の終に「元祿五年季夏契沖跋」と書ける跋文がある。従来、本書は契沖の自筆とされてきてゐるが、奥書によつて如水の浄書本であることの明らかな後出「古今餘材鈔」と一始め方特に一殆んど同筆であるやうに見える。また同じく如水浄書本である勢語臆断の奥書（契沖自筆）と改観抄の跋文の筆蹟とを比較してみると、いづれも元祿五年の筆であるが手蹟を異にする如く思はれる。

20古今餘材鈔（如水浄書本）

十冊。縦廿七・五糎、横廿糎の美濃判。題簽ありて、「古今餘材抄第一両序」の如くあり。各冊終に「円珠艸堂」の丸墨印あり、第一に仮名・真名両序、第二に春上下、第三に夏秋上、第四に秋下冬賀、第五に離別・羇旅・物名、第六に恋一二、第七に恋三四、第八に恋五哀傷、第九に雑上下、第十に雑体大歌所歌を収む。第十巻尾に

古今餘材抄十巻先年撰之雖然草稿汗穢自猶不得誂由此誂老兄去年写彼草稿畢日月茬再校訂延而及今愚案之中若有一両義之可取庶補童蒙矣

元祿五年仲秋廿五日　　密門釈契沖記之

再記仮名依日本紀万葉集和名鈔等後人莫恠之

21勝地通考目録（自筆稿本）

一冊。縦廿三・四糎、横十六・八糎半紙判袋綴。十九枚、題簽に「勝地通考目録全」とあり、（一オ）

一　石上布留と つゞくるは更級やをはすて山といひけるにおなし。（石上を）枕詞といふ（からすそれをふるき都ともふり日とも雨にされらめやもにし里とも。つゞくる時枕詞となるなり下は秀句なり）

契沖

一　つのくにのなにはおもはす山しろのとはにあひみんことをのみこその難波鳥羽のふたつは秀句なり枕詞のたくひおして知へし

勝地通考目録

とありて（二オ）より、全集所収の本文がはじまる。右の第一枚の文字は、署名・題名以外、稿成りて後の自筆の書入である。

22類字名所補翼鈔（自筆稿本）

八冊。縦廿四糎、横十六・九糎の半紙判袋綴本。表紙は樺色で、題簽に「類字名所補翼抄第一」などとあり。第一―卅六枚、第二―廿九枚、第三―四十枚、第四―廿六枚、第五―廿五枚、第六―

四十三枚、第七―十七枚、第八―卅二枚。第一（一オ）に
延暦十一年閏十一月己亥幸高橋津便遊猟于石作丘十八年十月
壬辰遊猟於西野　契沖
一関の石門久米の作良山吉備の中山の類石門佐良山中山などを
初によめる哥に関の石門などよめる故にさならてはよまれぬ
やうに思ふは然るへからすよりて次第を立る時はふきて石門
佐良山なと載るもの也此うたを知へし

類字名所補翼抄第一
伊行

とあり、同様第二にも（一オ）扉紙に署名・題名の間の空白へ延喜二年以後の交野・葛野・柏原野などへの遊猟記事を類聚国史から抜書してゐる。第三にも、同様に枕草紙から「原は」「うまやは」「河は」の抜き書があり、さらに

三代実録十貞観七年辛亥朝弐五日授大和国無位田中神従五位下

類字名所補翼抄第三
よ行
七（十七ウ）
元祿十年四月十九日一部七巻抄出了
密宗沙門契沖

第七（一オ）
天慶二年日本紀竟宴哥　契沖

各巻とも扉の余白に備忘的な抜書があり、第五以外には契沖の自署がある。

23類字名所外集（自筆稿本）
七冊。縦廿三・四糎、横十六・七糎の半紙判袋綴。表紙樺色、題簽に「類字名所外集第二」の如くあり。第一―卅三枚、第二―廿五枚、第三―卅三枚、第四―廿六枚、第五―廿八枚、第六―卅一枚、第七―卅八枚。第三・四・五以外（一オ）に「契沖」の自署あり、第七（卅八ウ）に
元祿十一年十一月十七日抄之畢

24勝地吐懐編（自筆稿本）
三冊。縦廿三・五糎、横十六・九糎の半紙判袋綴。表紙樺色、題簽に「勝地吐懐編上」などとあり。上四十三枚、中五十五枚、下五十一枚、上・中（一オ）に類聚国史よりの遊猟記事の抜書があり、下（一オ）には続後撰秋下の歌の抜書がある。これらは契沖自身の余白を利用しての備忘的な書入である。各冊その処に自署・題名あり。

25無名書（自筆稿本）
一冊。縦廿三・三糎、横十五・九糎の半紙判仮綴の裏打本。四十九枚表紙に題名が全然ついてゐない。大和の国の地名をイロハ順に配列考証したもの、本文は幸川から始まつてゐるが最初の一二枚が落丁してゐるのではないかと思はれる。奥書もなく、全集には「大和国地名類字」と名づけて収載してゐる。

26勅撰名所和歌抄（契沖手沢本）
二冊。縦廿六・三糎、横廿一・二糎の仮綴。題簽なく、とも表紙に「勅撰名所和歌抄上」の如くあり。上巻八十四枚、（八十四ウ）左下に「角之坊　祐雅」と二行に書く。下巻八十五枚（八十五ウ）に此本宗碩法師の抄出になる旨（永正丙寅の紀年あり）槐陰散人の奥書がある。

27うつぼ物語の歌くらひらきの巻（契沖手沢本）

一冊。縦廿四・四糎、横十七糎の半紙判仮綴本。五十六枚各面十行。題簽なく、表紙に「うつぼ物語の歌くらひらきの巻　全」とあり。虫食甚だしく裏打がしてある。表題に「くらひらきの巻」とあれど、内容は続いて「ろうの上の巻」「ふきあげの巻」「ふち原の君」「あて宮」「たつのむら鳥」「まつりの使」「はつ秋」「さくの宴」「たゝこそ」「むめの花かさ」「さかの院」「国ゆつり」の巻々の歌を集め、最後に「うつぼ物語の詞」の項がある。（五十六オ）には菅家萬葉集の語句とその訓を、（五十六ウ）には新撰朗詠から和歌七首を夫々備忘的に抜書してゐる。奥書なく、裏表紙内側に次の如くあり。

此うつぼも大虫入にて
やむを得ず裏打表紙調
八世実仁
契乗

28 勢語臆断（如水淨書本）

四冊。縦廿七・九糎、横廿・五糎の美濃判。上之上五十三枚、上之下四十四枚、下之上五十六枚、下之下六十一枚でその終に自筆の奥書あり。

右此勢語臆断四巻先年艸之然其稿本甚汙穢自猶不得謄仍去春誂老兄写彼稿本然猶無閑暇不能校合近日得暇故一校以加改正畢
元祿五年季秋初三　密乗桑門釈契沖
再記仮名依日本紀萬葉集和名鈔等後覧之人莫怪之矣

29 晩歌和歌集（契沖自筆写本）

二冊。縦廿一・九糎、横十五・三糎。題簽に「晩華和歌集上長流」とあり、序文によれば貞享三年長流の歿後その作歌を契沖が編輯したもの、後に遺文を収め、朱の書入あり。

30 詠百首和歌（契沖自筆本歟）

一冊。縦廿三・二糎、横十六・八糎の半紙判。六枚、題簽は別筆で「詠百首和歌全」とあり。春歌二十首、夏歌十首、秋歌二十首、冬歌十首、恋歌二十首、雑歌二十首がのこされてゐる。

31 金葉集類下（契沖自筆抜粋本）

一冊。縦十七・五糎、横廿四・八糎の横本。廿一枚、題簽なく、藍色の表紙に標記の如くあれど、実は「釈教歌集」または「無常歌集」とでもあるべき処である。すなはち、全葉・詞花・千載・新古今・新勅撰・続古今・玉葉・続後拾遺・風雅・新後撰・新集載・新続古今・続後撰・新千載・続拾遺・夫木・山家集・拾玉千・月清集・拾遺愚草・新撰六帖・新葉集・夫木抄などの勅撰集および私家集に出てゐる釈教歌を主として集めたもの。

32 馬内侍集外四（如水書写契沖手沢本）

一冊。縦廿七糎、横廿糎の美濃判袋綴。樺色の表紙で、百一枚墨付九十六枚各面十二行、朱の書入あり。馬内侍集・相模集・康資王母集・殷富門院大輔集・後堀河院民部卿典侍集の五家集を写してゐる。

33 清輔家集（契沖自筆写本）

一冊。縦廿七・八糎、横廿・二糎の美濃判袋綴。廿五枚各面十二行、奥に「東野州聞書」を引いて人丸影供の記事を抜書す。その後に　元祿十一年六月四日神通桑教　沙門契沖
とある。

34 散木奇歌集（契沖手沢本）

二冊。縦廿八糎、横廿糎の美濃判袋綴。題簽なく、上巻第一より

第四まで六十五枚、下巻第五より第八まで百六枚。朱で仮名遣などを校合してゐる。

35万葉抄（契沖手沢本）

一冊。縦廿八糎、横廿糎の美濃判袋綴。百七十枚、表紙内側へ糊つけしてかくれた紙に「萬葉集抄　宗祇法師」とあつて、連歌師風の書体の本文には朱で校合してゐる。（一七〇ウ）に奥書あり、その最後に「東本願寺所献也」とある。

36古歌拾遺（契沖自筆写本）

一冊。縦廿七・八糎、横廿・八糎の美濃判袋綴。緑色の表紙に金箔を散らした短冊様の題簽を付す。六十六枚各面十一行。朱の書入あり。新撰和歌・菅家萬葉・寛平御時后歌合・一宮紀伊家集・紫式部家集・万粋抄（朱で「万代抄」）・俊頼無名抄下より抄出したもの。

37住友友昌十七回忌追悼歌集

一冊。縦廿八・八糎、横十八・六糎の美濃判袋綴。厚い鳥の子紙を用う。原題「和歌題林愚抄内述懐」。入江友俊の序文によれば、延享戊辰孟夏下院、友俊の家に十七人の者が集つて懐旧といふ題で、周富の十七回忌追悼の歌を詠んだのを一人一首づゝ集めたもの。出詠者、友俊・都志女・友房・尼綱香・純之・純禎・正誼・寂誉法師・行誉法師・素絢・友由・正名・為匡・青山法師・源光法師・賢誉法師・忍鎧法師。

38本朝麗藻巻下（契沖自筆写本）

一冊。縦廿四糎、横十九・五糎。題簽に標記の如くあり。四十一枚。書写年代不詳。この上巻は次(39)にあり。

39暮春醍醐寺即事（契沖自筆写本）

一冊。大きさ装幀右に同じ。六十九枚。題簽に「本朝麗藻巻上」とあるべき処、この本初めの部分落丁のため、最初になつて出てゐる菅原在良の「暮春於醍醐寺即事」と題する詩の題をとつて、後人が誤つた題簽を付したのである。

40日本続文粋中密門文類（契沖自筆写本）

一冊。縦廿四糎、横十七糎。表紙はとも紙袋綴。冊一枚墨付冊枚。題簽なく、表紙右下に「契沖」の自署あり。書写年代不詳。

41凌雲集（契沖自筆写本）

一冊。縦廿七・三糎、横十九・八糎。冊七枚墨付冊六枚。奥書に元禄十一年三月廿二日以松下見林翁之本校此今井自閑翁之本竟。注異者則見林本矣。予先借自閑本謄写。当時見借侘在餘所。故正此本為彼未也。　密桑沙門契沖記

とあり。

42朝野群載要摘（契沖自筆写本）

一冊。縦廿七・四糎、横廿・八糎。題簽なし。六十枚各面十行。

43類聚国史（契沖自筆写本）

十三冊。縦廿九・二糎、横廿・五糎。第四・第四・第十一・第三十一・第三十六・第三十七・第七十一・第七十四・第八十一・第百一・第百七・第百六十五・第百七十七以上十三巻、第百七十七終に奥書あり、

類聚国史者菅家依宇多天皇之勅撰之但三代実録者後人加之歟載三代実録序有宰府遷謫之事明知有後人増加矣（虫食）沙門契沖

44続日本紀要略（契沖自筆写本）

一冊。縦廿四・二糎、横十七糎。表紙に題簽なく「続日本紀要略一巻」と左上にあり、その下に「五十七枚」、右下に「契沖」と

自署す。仮綴各面十行。朱の書入あり。（五十七ウ）に

元祿十一年二月廿九日続日本紀四十五、校合之（虫食）次略抄竟

密宗沙門　契沖

45日本後紀略要　（契沖自筆写本）

一冊。縦廿四糎、横十七糎。題簽なく仮綴、表紙右下に、契沖」と自署。冊一枚各面十行。（三十一オ）に

天長十年正月巳丗朔壬寅

元祿十一年八月十七日（朱下四日）写終

46続日本後紀要略　（契沖自筆写本）

二冊。縦廿四・二糎。横十七糎の半紙判仮綴。題簽なし。上巻表紙共廿六枚各面十行。下巻卅二枚、別筆歟。ともに朱の書入あり。

47文徳実録——（裏略）——（契沖自筆写本）

一冊。縦廿三・三糎、横十六・七糎の仮綴唐紙裏打本。題簽には「文徳実録」とあるのみ。

48三代実録要略　（契沖自筆写本）

一冊。縦廿四・三糎、横十七、二糎。五十二枚。表紙に題簽なし。（五十二ウ）に

元祿十一年九月五日　　金剛桑沙門　契沖

49延喜式取要　（契沖自筆写本）

一冊。縦廿四・二糎、横十七・二糎の仮綴半紙判。表紙に契沖と自署あり。廿九枚。（二九ウ）に

元祿十年猟月廿八日　　契沖

50延喜式中密門宝鍵　（契沖自筆写本）

一冊。縦廿四糎、横十七・三糎の仮綴。題簽なく。表紙右下に契沖と自署あり、九枚（九ウ）に

右延喜式五十巻中抜預密教矣

元祿十年歳次丁丑十二月廿日　　釈　契沖

51河社　（契沖自筆稿本）

二冊。縦廿四・二糎、横十七糎の半紙判袋綴。天の巻七十六枚、地の巻七十枚。題簽に「河社天」の如くあり。表紙樺色。本文、反故の紙背に書く。天には（七十六ウ）左下隅に「圓珠之印」墨角印。裏表紙内側に「以上真筆七十六枚」とありて「桑門契沖」の朱角印あり。地には扉に「河社下沖師真筆七十枚」とありて、それに重ねて桑門契沖の朱角印あり、裏表紙内側は天と同様。

52雑記　（契沖自筆稿本）

一冊。縦廿四糎、横十七・二糎。美濃判袋綴廿二枚。題簽なく、右端の綴ぢめに契沖師真沖とあり、奥書もなく、虫食甚だし。「圓珠庵雑記」として流布してゐる。

53本朝書籍目録　（契沖手沢本）

一冊。縦十五糎、横廿二・三糎の横本。表紙は藍。冊三枚。「諸家名記」の項の終り（二六ウ）に

以仁和寺宮本書之

普広院筱尋之時注文云云

此抄入道大納言実冬卿密々所借賜之本也

永正二年八月四日写之　　師名　在判

54訳文筌蹄（筆者不詳）

一冊。半紙判袋綴。冊四枚。題簽なく、表紙に、「訳文筌蹄（一、二）」とあり。下に「圓珠庵印」と墨丸印あり。終りの方虫蝕甚だし。

55訳文筌蹄助語（筆者不詳）

一冊。半紙判袋綴。冊五枚。題簽なく、表紙に「訳文筌蹄助語全」

とあり、（三五ウ）に

寛保第三癸亥年十一月書写ス（虫）元

此書は八世実仁大虫入りて

裏打篤修復改メ

契乘書

56 上萬集代匠記序（契沖自筆歟）

一巻。縦廿・五糎、横百四十二・五糎。

57 契沖阿闍梨追悼詩歌

一巻。縦廿九・六糎、横八百八十糎。知友の安積覚・村願言・飼飼真泰・多湖直・村良直・松浦守約・清原長秀の漢詩、清原長秀・藤原忠実の和歌、藤原為明・伴資紹・藤原旨将の弔文などがある。奥書年月なし。

58 契沖阿闍梨遺言状（契沖自筆）

一幅。縦十八・七糎、横六十三糎。

56 百人一首改観抄奥書寫（契沖自筆歟）

一幅。縦廿四・五糎、横卅五糎。標題の下に「写」とあり、終に「元祿五年季夏契沖跋」とある。原本と書体同じ。稍小。

附 幼年手跡（契沖自筆）

右と同幅。縦廿四・五糎、横卅五糎。内容は契沖より三才年長の兄、如水の「自少至老」略伝である。おそらく、元祿十一年十一月廿五日如水歿して後、追悼の心をこめて契沖が書いたのではないかと思はれる。この紙の左端に「此一紙は○契沖大徳幼雅（ママ）の時之書筆と伝成之　契猛」とある附記は蛇足と考へられる。

以上で圓珠庵蔵本に対する簡単な書誌的解説を終るが、4 25 27 1 38 39の如く内容と標題との食違つているものがあり、それはもともと表紙に、内容を示す標題の附けてゐたのを後人がいゝ加減な附題をしたのに因るのである。なほ、右の図書館寄托本の他に現在、圓珠庵自身が保存してゐるものに、(60)契沖大徳墓碑、一巻（寛保三年癸亥冬大阪　五井純禎謹撰）(61)契沖阿闍梨二百年忌献詠歌下写、一冊（明治三十二年五月廿六日うつし終）(62)春懐旧帖　一冊（師五十年追悼円珠庵五世契徳）(63)春懐旧　一帖（宜長などの歌あり）(64)延寿庵和歌集　一冊(65)般若心経　一巻（奥書「元祿十年二月仏涅槃日最上乘沙門契沖書」）(66)僧契沖筆蹟　一冊（木凹版）などがある。

円珠庵所蔵でない契沖自筆本

妙法寺記	一幅	延命寺
妙法寺之図	一葉	〃
詠富士山百首和歌	一幅	〃
厚顔抄寫	三冊	上賀茂神社
拾遺集考要自	一冊	〃
勝地吐懐篇寫	二冊	〃
儀軌	十冊（六十巻の内）	宝山寺
契沖遺文	一幅	佐伯良謙
書状	一幅	大和国史館
書状	一幅	天理大学図書館
自註歌	一巻	〃
円珠庵雑記	一冊	〃

右は去る五月七日―十二日まで大阪三越で催された契沖展に展観されたものである。